

福祉にいがた

Fukushi Niigata

2024
第865号 9月号

CONTENTS

巻頭特集

「聴覚情報処理障害」ご存じ？
(2~4面)

- 福祉の現場―「認知症」地域で支援
- 「地域福祉マンガ大賞」募集



絵 「スーパー不動明王」 作・久保田 学（聖籠町）
〈作者一言〉天下無敵の戦国バージョンの不動明王



社会福祉
法人

新潟県社会福祉協議会

<https://www.fukushiniigata.or.jp>

聞こえるのに理解できず

聞き取り困難症とも 研究始まったばかり

「聴覚情報処理障害」ご存じ？



当事者を公表
薄田 邦雅 さん
(新潟市中央区)

「聴覚情報処理障害」(APD)をご存じだろうか? 「聞き取り困難症」(LD)とも呼ばれ、聴力に問題はなく、聞こえているのに相手の話し言葉を情報として処理・理解するのが難しい障害だという。ネットなどによると、相当以前から障害の存在が報告されていたのに、国内で本格調査が始まったのは3年前という。さらに、医師による研究班が「診断と支援の手引き」第1版をまとめたのは今年3月で、まだ社会に認知されるには至っていない。APDと診断された薄田邦雅さん(新潟市中央区)は「コミュニケーションがうまく取れずに誤解されることも多い」としながら、APDへの理解が広がることを訴えている。

症状似ても難聴と違う

雑音下の会話困難

「聴力に問題はなく、話は聞こえているのに内容が理解できないのがAPD(聴覚情報処理障害)だが、

自分が「変だぞ」と感じたのはいつか?」

「新潟市内の高校を出た後、東京の私立大学に進み、東京で就職した。本社の事務部門に配属されたが、電話対応で相手の言うことが理解できず、仕事にならなかった。半年で退職し新潟

の自宅に戻った」

「戻って、どうした?」

「簿記を勉強し会計事務所に勤めたが、長続きしなかった。その後いろいろなアルバイトをした。10以上の仕事を体験した。どれも長続きしなかった」

「APDと診断されたのはいつ?」

「昨年の6月、新潟大学医歯学総合病院で診断された」

「受診のきっかけは?」

「電話が苦手、雑音下の会話が苦手、コミュニケーションを取るのが苦手などについて、ネットで調べると、当事者のサイトを見つけた。そこで相談したら『やはり、APDでは』といわれ、耳鼻科の診察を勧められた」

「その3カ月後には自閉スペクトラム症であるとも診断された。」

「昔からこだわりがあったので、診断は納得できた」

「双極性障害(躁うつ病)も診断されている。」

生きる

大学時代、飲み会苦手に

人間関係広がらず

「診断は20代半ばで、治療で薬を飲み、落ち着いている。これにより精神障害3級の手帳を受けた」

「ほかにも、APDが原因と思えることは？」
「大学時代に飲み会があっても、ざわついた場所

での会話が聞き取りづらく、次第に飲み会も苦手になった。人間関係が広がらず、友達も増えなかった」

「APDの研究の歴史は浅く、障害については社会に認知されていない。」「聞こえているのに、内容が理解できないことを分かってもらえず、当事者は生きづらさを感じてきた。」

「薄田さんが呼び掛け、だから、APDという障害を知って、理解してほしいと思っっている。APDだけでは障害者手帳は出さず、どんな支援が可能なのかを探っている現状だ」

「薄田さんが呼び掛け、だから、APDという障害を知って、理解してほしいと思っっている。APDだけでは障害者手帳は出さず、どんな支援が可能なのかを探っている現状だ」



NPO法人が開いた福祉系トークイベントで「聴覚情報処理障害」について語る薄田邦雅さん（中央）＝8月18日、新潟市（主催者提供写真）

県内当事者の会企画 呼び掛けに20人参加

聴覚情報処理障害の症状

- 聞き返しや繰り返しが多い
- 雑音下での聞き取りが難しい
- 口頭で言われたことは忘れ理解しにくい
- 早口や小さな声などは聞き取りにくい
- 長い話になると、注意して聞き続けることが難しい
- 視覚情報に比べて聴覚情報の聴取や理解が困難

「APDの理解と支援」より

【聴覚情報処理障害】(APD = Auditory Processing Disorder)
聴力は正常で音声は聞こえているのに、聞こえた音声を情報として認識するのが困難な障害。伝音の器質に問題ないため、通常の聴力検査では発見されず、成人してから診断されることがある。

原因は「生まれ持った脳の特徴」とされ、症状は似ている部分があっても難聴ではない。

今年6月、県内の当事者が初めて会合を開いた。

「新潟APD当事者会を企画して開催するという予告記事を新潟日報が掲載してくれた。県内各地から約20人が集まった。『初めてだから』と、大阪の当事者会代表も応援に駆け付け、驚いた。当日は参加者がそれぞれの生きづらさ体験などを話し合った」

―その後は？

「毎月一回、開催している。そこで参加者は共感し合っている。この会を継続したいと思っている」

（〜4ページへ続く）

会話は1対1 静かな場所で

（3ページから続く）

— 会合は話し合いだけ？

「私は、雑音を低減するイヤホンが販売されていることを調べ、当事者に役立つ情報として紹介した」

— APD当事者に対し、周囲ができることはあるか？

「当事者は音声だけでなく、文字を見た方が理解しやすいので、協力してほしい。会話はなるべく1対1で、静かな場所と心掛けてもらえると思う」

— 今も実家で暮らしているのか？

「1年前からグループホームで生活している」

— SDGSを新潟に広める会の代表を務めている。

「活動として、新潟の砂浜でボランティアと一緒にプラスチックごみを拾っている。砂浜にいろんなごみが多く、衝撃を受けたのがきっかけだ。拾ったプラスチックを横濱の会社へ送り、プラスチック雑貨に作り直してもらっている。売れば、砂浜の浄化と同時に収入にもなる。考えたが、収入は難しい」



写真立てやランプシェードなど、きれいな雑貨の数々。拾い集めた、浜辺のプラスチックごみから作り直された

薄田さんのメール
nigata9023@yahoo.co.jp

新潟ユニゾンプラザ 情報

インターネットサービス



多目的ホールと、4、5階の各会議室に加え、新たに2階の和室でもインターネットを利用できる環境を整備しました。

インターネットの使用料は無料。
無線LANルーター、有線LANも無料で貸し出しを行います（数に限りがあります）。



貸しホール・貸し会議室は 新潟ユニゾンプラザへ

多目的ホール、大会議室、大・中・小研修室など用途や規模に合わせてご利用いただけます。無料の専用駐車場(220台)を完備しています。

◆貸し室の利用申込方法
新潟ユニゾンプラザホームページよりお申し込みください。貸し室の予約状況も公開しています。
URL : <https://www.unisonplaza.jp/>

主な設備の紹介



マイクスピーカー

マイクスピーカーは中小規模の会議であれば単体で使用できます。大規模会議ならハンドマイクを接続することで会場内での集音・拡声も可能です。オンライン研修などに最適。

機関誌「福祉にいがた」と「オアシス21 福祉にいがた」合併号 広告募集

新潟県社会福祉協議会は機関誌として「福祉にいがた」を毎月発行しています。年12回のうち、8月と12月、3月は長寿社会振興を目指す総合情報誌「オアシス21」と「福祉にいがた」との合併号となっています。

発行部数は「福祉にいがた」が1万2千部、「オアシス21」「福祉にいがた」合併号が1万7千部です。

これら機関誌は県内の市区町村社会福祉協議会をはじめ、小学校から大学までの教育機関、保育園、図書館、公民館などに送られ、多くの県民の皆様からご覧いただいています。

社会福祉法人新潟県社会福祉協議会機関誌広告基本料金表

区分	大きさ	掲載料	カラー
全ページ(裏表紙)	縦25.5cm×横17cm	14万円	18万円(20万円)
半ページ	縦12.5cm×横17cm	7.5万円	10万円(12万円)
2 段	縦10cm×横17cm	6万円	8万円
1 段	縦5cm×横17cm	3万円	4万円

*消費税別 *版下代は広告主負担 *カラーのカッコ内は裏表紙料金
問い合わせ 新潟県社会福祉協議会 企画広報課 ☎025(281)5613

令和6年度

ホームページでも内容を紹介しています
<https://www.fukushihoken.co.jp>

全社協 保育所・認定こども園の損害補償

スケールメリットを活かした充実した補償と割安な保険料です。



◆ 加入対象は社会福祉法人等が運営する認可保育所、認定こども園

セットプラン

保険金額	基本セットプラン	天災セットプラン	
賠償事故に対応	身体賠償（1名・1事故）	1億円・7億円	2億円・10億円
	財物賠償（1事故）	1,000万円	1,000万円
	受託・管理財物賠償（期間中） うち現金支払限度額（期間中）	200万円 20万円	200万円 20万円
	人格権侵害（期間中）	1,000万円	1,000万円
	事故対応特別費用（期間中）	500万円	500万円
	被害者対応費用	1名につき 5万円限度 1事故 10万円限度	
園児の傷害事故に対応	死亡保険金	121.2万円	108万円
	後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金額の4%～100%	
	入院保険金（1日あたり）	1,700円	1,500円
	手術保険金	入院中の手術：入院保険金日額の10倍 外来の手術：入院保険金日額の5倍	
	通院保険金（1日あたり）	1,100円	1,000円
	天災補償	なし	あり

基本セット補償保険料計算例 100名で加入の場合	
賠償	29,300円
傷害 870円 ×100名 ×1口	87,000円
合計	116,300円

セットプランを
おすすめします!!



個別プラン

プラン1 保育所業務の補償

- ① 基本補償
 - オプション1 ● 地域子育て支援拠点事業等補償
 - オプション2 ● 保育所の借用不動産賠償事故補償
 - オプション3 ● 看護職の賠償責任補償
 - オプション4 ● クレーム対応サポート補償
- ② 個人情報漏えい対応補償
- ③ 保育所の什器・備品損害補償

プラン2 保育所利用者の補償

- ① 園児の傷害事故補償
- ② 来園者の傷害事故補償
- ③ 園児送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3 職員等の補償

- ① 職員の労災上乗せ補償
使用者賠償責任補償
- ② 役員・職員の傷害事故補償
- ③ 役員・職員の感染症罹患事故補償
- ④ 雇用慣行賠償補償

プラン4 法人役員等の補償

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

● この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約（賠償責任保険、サイバー保険、学校契約団体傷害保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険）です。

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は「保育所・認定こども園の損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 ▶ **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 〈保険会社〉 TEL：03(3349)5137

受付時間：平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL：03(3581)4667

受付時間：平日の9:30～17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

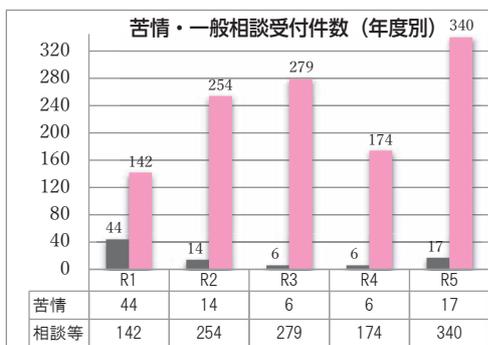
(SJ23-11599より抜粋)

令和5年度 苦情・相談の状況

新潟県福祉サービス運営適正化委員会へ令和5年度の1年間に寄せられた「苦情・相談」の状況がまとめられました。

苦情17件相談340件

令和5年度は苦情が17件、相談が340件でした。前年度と比べ、苦情は6件



—グラフ1—

から3倍近くに増加。相談も174件からほぼ倍増しました（グラフ1参照）。

苦情・相談とも大幅に増えたのは新型コロナウイルス感染症の5類移行により、面会制限が緩和されて施設への出入りが増えるとともに苦情・相談も増えたことなどや、特定の申し出人からの相談が続いたことなどが理由とみられます。

また、障害者本人からの申し出が増加したのも特徴です。中には、長時間に及ぶ訴えがあったほか、訴えの内容が不明確なケースもありました。

全国的には、都市部で苦情が多い傾向がある一方、少ない県も一定数あり、ばらつきが見られます。また、人口10万人当たりで新潟県は、件数が増加しているグ

ループに入ります。

分野別の苦情・相談

「苦情・相談」についてサービス分野別と内容別に見てみます。

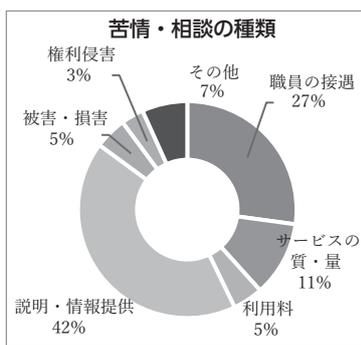
【高齢者分野】

主に「特別養護老人ホーム」や「訪問介護・通所介護」が多数を占めます。

一方で、福祉サービス以外である「有料老人ホーム」「老人保健施設」「サービス付き高齢者住宅」の苦情も一定数あります。

【障害者分野】

この分野は、令和4年度



—グラフ2—

の全体の6割から大きく増加し、全体の7割近くを占めるようになりました。

大多数は「共同生活援助」「就労継続支援B型」「就労移行支援事業所」「就労継続支援A型」ですが「就労移行支援事業所」「相談支援事業所」も増えつつあります。

【児童分野】

「放課後等デイサービス」の苦情・相談が依然、多くなっています。そのほかは「保育所」でした。

苦情・相談の種類

前年度に比べ、職員からの説明や情報提供不足に関するものが4割を超え、続いて言葉遣い、関わり方など「接遇」に関するものが3割近くを占め、サービスの質などに対する不満が1割となっています（グラフ2参照）。

また、事業所に対し指導を求める苦情や、事業所への過度な要求が増加しています。これらの場合、行政

特養などの高齢者施設、訪問介護、障害者の支援施設、こども園 など

職員が
お願いや苦情を
聞いてくれない

職員の言葉遣いや
言い方がキツく
嫌な思いをしている

施設内でケガをしたが
職員の説明や対応に
納得できない

福祉サービスについて、事業者にも相談しても解決しない、また、話しにくい場合は

新潟県福祉サービス運営適正化委員会

〒950-8575 新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階

TEL.025-281-5609

相談無料 秘密厳守

FAX.025-281-5610

メールアドレス kujou@fukushiniigata.or.jp

機関に対応を委ねたほか、他の相談支援機関の関与を求めた事例もあります。

お知らせ

直接書き込みOK 新ポスター活用を

運営適正化委員会の新しいポスターⅡ写真Ⅱが出来上がりました。氏名や電話番号などを直接書き込みできるワード形式のポスターもあり、ホームページからダウンロードできます。

苦情解決責任者研修会 新年2月頃開催予定

今年度の研修会は、令和

7年2月頃を予定しています。12月にホームページで詳細を案内します。

研修会などのお知らせ 文書やめメール送信へ

アドレス登録おすすめ

研修会などの案内は今後、文書での告知をやめ、メール送信とホームページからの発信に切り替える予定です。案内をスピーディーにお伝えする狙いです。

このページ内の2次元コードからメールアドレス登録すると、研修会案内メールが届くようになります。事業所単位での登録も可能です。



新潟県福祉サービス運営
適正化委員会へのメール
アドレス登録はこちらの
2次元コードから



社会人と呼ばれるようになって、はや十数年。ふと職場を見回せば、自分より若い職員が随分と増えた。それは同時に、自分がそれなりの責任を求められる年齢になったことでもある。

しかし、その年齢に見合う

大人の責任と振る舞い

振る舞いができているか。正直、自信はない。身近な例では、今の自分と同じ年齢だった頃の両親にしても、社会人のイロハを教えてくれた前職時代の先輩にしても、もっと自信と余裕があった



大丈夫、何とかなるって

ように見えた。ところが、自分はいえ言いい訳はするし、余計な一言も口から出る。やはり、未熟さが気になってしまう。

それでも、周りにどう思われているかを別にすれば、何だかんだと、今日までやってきている。自分が子どもだった頃の両親も、社会に出た頃の先輩も、もしかしたら今の私と同じようなことを考えていたかもしれない。

考えてみれば、大人は誰でもみんな、子どもの部分が残っているのではないか。

この先、今よりさらに年齢を重ねれば、当然、それに見合う振る舞いを求められるだろう。それでも10年後、20年後の自分の「大丈夫だ、何とかなっている」との言葉が聞こえる気がする。

私も10年前、20年前の自分に同じ言葉を掛けてあげたかった。そう、きっと、大丈夫なのだ、と。

(K-I-L-I-N)

「福祉にいがた」へ ご意見感想、情報をお寄せください

- ◆TEL 025 (281) 5613
- ◆FAX 025 (281) 5528
- ◆Eメール kikaku@fukushiniigata.or.jp

- ◆新潟県社会福祉協議会企画広報課
〒950-8575 新潟市中央区上所2-2-2
新潟ユニゾンプラザ3階

お待ちしております

桑取谷の魅力子どももらに伝授

遊びや郷土芸能： ネット使い発信も

新テーマ型募金助成
かみえちご山里倶楽部

「にいがた・新テーマ型募金」の助成を受けて事業を実施した、上越市のNPO法人「かみえちご山里ファン倶楽部」（石川正一理事長）から「ありがとうメッセージ」が届きました。ご紹介します。



地域の人から「縄ない」を習う子どもたち



インターネットを通じ海外の子どもと交流



かみえちご山里ファン倶楽部は、上越市西部の中山間地域にあり、人口減少が進む桑取・谷浜・中ノ俣・正善寺で地域づくり活動を続けています。

新テーマ型募金の助成を

受け、令和5年度の1年間、子どもたちの居場所づくりの事業「桑取谷から世界へ」を実施しました。

桑取谷は桑取川沿いに集落が集まっています。過疎と高齢化は進んでいます。

が、山と川、海に恵まれ、子どもたちを育むのに最高の環境であるうえ「地域で子どもを育てる」との気風に満ちています。事業名には、世界に誇れる、こうした桑取谷の教育環境を子どもたちの居場所づくりに生かそうとの思いを込めました。お伝えしたい活動はまず「こどものたまりば」です。夏休みと冬休みに計6回実

ありがとう
メッセージ



施、地元小学校の子どもたちが延べ50人近く参加しました。夏休みの「森あそび」では秘密基地づくりや森の手入れを体験。盆踊りや保護者同伴での海遊びも楽しみました。冬休みには講師を招き、最先端のデジタル技術に触れました。

信していました。さらに、餅つきや稲刈り、地元の人を先生に迎えての縄ないなども体験しました。

このほか、首都圏の子ども食堂との交流、地域に伝わる子どもも里神楽の指導や伝承などもありました。

次に紹介するのは放課後教室事業「こどものたまりば・せかいとともだち」です。小中学校の子どもたちを対象に、隔週で1年間計28回実施、参加者は延べで510人を超えました。

事業を通じて、地域のすばらしい子育て環境を守っていくことの大切さを感じました。「ここで子育てしたい」と思う人が増えれば、人口減少に歯止めをかけられると期待します。

英会話を習い、ネットでスリランカやネパールの子どもたちと交流し、子どもたちが地域文化を世界へ発信

子どもたちも自らが「地域の発信者」になる意識と、地域への誇りも芽生えてきたと感じており、とても有意義な事業を展開できたと、感謝しています。

本年度新テーマ型募金 参加団体募集 9月6日から

新潟県共同募金会は令和6年度「にいがた・新テーマ型募金」の助成対象となる団体実施事業の募集を9月6日から始めます。期間は10月4日まで。応募30団体以上、募金200

0万円が目標です。募金期間は令和7年1月から3月末日。新テーマ型募金は、地域福祉の課題解決を目指す、県内の団体活動への寄付で、どの団体のどの活動を応援するかを決めて募金する仕組みです。募集要項やエントリーシートなどは新潟県共同募金会ホームページをご覧ください。



赤い羽根

情報

報



「福祉のマンガ」全国公募

文学大賞に続く第2弾

「ボランティア」など3部門

新潟市西區社会福祉協議会は「地域福祉マンガ大賞」を企画、福祉に関するマンガ作品を10月31日必着で全国公募しています。西區社協は昨年「地域福祉文学大賞」として福祉に関する小説を全国公募し話題となり

ましたが、今回はそれに続く第2弾です。地域福祉マンガ大賞は日本アニメ・マンガ専門学校（新潟市中央区古町）の協力で実施されます。マンガ大賞には①「ボランティア」②「自分らしさ」

③「食」の3部門が設けられ、いずれかの部門にエントリーします。

②「自分らしさ」は「多様性の表現」がポイントとなります。③「食」はフードバンクや子ども食堂など、福祉に関わりの深い分野として、発想の広がり

期待されます。応募者について、居住地などの制限はなく、誰でも応募可能です。

作品は「A4で1ページ以上32ページ以内」であれば、1コマや4コマ、ストーリー作品など、自由です。審査を経て、大賞1作品に副賞10万円、各部門賞の計3作品にそれぞれ、副賞3万円が贈られます。

審査結果は来年2月末ごろ、西區社協のホームページ上で発表予定です。

文学大賞に続き「マンガ大賞」を企画できたのは、ボランティア活動に携わってきた市民が匿名で一定額を西區社協に寄付したことがきっかけです。有効利用の1つとして、寄付者の賛同を得て副賞の原資としました。

募集は7月から始めておりインターネットの「応募サイト」にも掲載、問い合わせもあるそうです。

西區社協の担当者は「子どもから大人まで親しみやすいマンガで、福祉について考えるきっかけになるといい」と話しています。

問い合わせは西區社協、電話025（211）1630。



「地域福祉マンガ大賞」のチラシ



「地域福祉マンガ大賞」の募集要項はこちらの2次元コードから

認知症のこと、ひとりで悩んでいませんか？ ～お気軽にご相談ください～

新潟県認知症
コールセンター

相談電話

025 - 281 - 2783

にんじょうなやみ

【所在地】〒950-8575 新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階(来所相談も可)
【相談時間】月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く) 9:00～17:00



新潟県こころの相談ダイヤル
(365日24時間対応)

0570-783-025

9月は「県自殺対策推進月間」 「たった一つの命」守ろう

新潟県は9月1カ月間を「自殺対策推進月間」と定めており、この月間に今年度も自殺予防の啓発活動を展開します。Web広告やテレビ、ラジオなど多様なメディアを活用。「たった一人のあなたです。たった一つの命です」をキャッチフレーズに、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を呼び掛けます。

国は9月10～16日を「自殺予防週間」と定めていますが、この週間は県は独自に9月1カ月間へ拡

大し対策に取り組んでいます。国の「週間」を、県が「月間」に拡大するのは、県内の自殺実態が深刻なためです。

県内の令和5年の自殺者数の概数は404人で、前年より10人減りました。

人口10万人当たりの自殺者数を示す自殺死亡率はいずれも概数で令和5年の本県が19.2で、昨年の19.4より0.2ポイント減ったとはいえ、全国の17.3を上回り、依然、深刻な状況です。

15日「老人の日」15～21日「老人週間」

築こう健康長寿社会

「みんなで築こう 健康長寿と共生社会」を標語に「老人の日・老人週間キャンペーン」が令和6年度も「老人の日」の15日から21日までの7日間を「老人週間」として全国で実施されます。

国や全国社会福祉協議会などの主催です。

「高齢社会対策基本法」に基づく「高齢社会対策大綱」では①全ての年代の人々が希望に応じて活躍できるエイジレス社会②高齢期

の暮らしを具体的に描ける地域コミュニティの構築③技術革新がもたらす新しい高齢社会対策の志向などを掲げています。

長寿・高齢化が進み、人生100年時代と呼ばれる今日、誰もが安心して生きがいのある生活を送られる健康長寿社会の構築が急務となっています。

健康長寿の社会実現を目指し、キャンペーンは6つの目標として①保健・福祉のまちづくりを進め、ふれあいの輪の拡大



②高齢者の社会参加・ボランティア活動③高齢者の生きがい・健康づくり・介護予防の取り組み④高齢者の人権の尊重⑤多世代が協力しての安心して活力ある健康長寿社会づくり⑥減災や防災に関心をもち、地域でのつながり構築を掲げ、それらの推進を目指します。



新潟ユニゾンプラザ2階の「図書情報ルーム」(通称・ユニゾンの図書館)がお薦めする「今月の本」。

胸打つ瞽女の言葉

視覚障害の女性の旅芸人「瞽女」はかつて、全国に存在した。時代の流れの中で消えていったが、最も近年まで残っていたのが新潟県だという。

越後瞽女は高田瞽女と長岡瞽女に大別される。その瞽女たちや、瞽女と縁のあった人たちの言葉、計92をまとめたのが「瞽女力入門」。筆者は妙高市在住の国見修二氏。

越後瞽女のうち、新聞で



よく話題となったのが平成17年に105歳の生涯を閉じた、長岡瞽女の小林ハルさんと、昭和58年に85歳で死去した、高田瞽女の杉本キクイさん。ともに明治半ばの生まれ。障害者福祉の仕組みが乏しく、差別的な言動も少なくなかった時代を、瞽女として生きた苦労はどれほどだったか。残された言葉が胸を打つ。

「旅で辛いのは雨や雪でない。辛い言葉をかけられることだ」(小林ハル)「次の世には虫になってもよい。明るい目さへもって生まれたい」(同)「もしも、もう一度生まれかわれるんなら目明きの普通の娘になって毎を送りたい」(杉本キクイ)

終活、ぐっと身近に

ワイドショーのリポーターやタレントを務めた菊田あや子氏の「エンジョイ! 終活」。第1・2章は主に、東京で仕事をしながら、山口の実家の母親を介

護し看取った体験談。

後半の第3・4章は終活に関した民間資格に挑戦、一般社団法人「終活協議会」の理事になった経緯をつづり「終活は断捨離から」「デジタル終活」など具体的なノウハウを紹介する。「おわりに」では本書の核心部分をおさらい。「終



活は人生の終い方を考えると同時に、これから自分がどう生きるかを考えること」「終活をきちんと考えた先に不安がなくなり、さまざまな希望が湧いてきた」(エンディングノート)をやってみたら(中略)人生の終い方はもちろん、これからの人生の指針も見えてくる」などなど。

体験を基に平易な言葉で書かれており、終活がぐっと身近に感じられた。

パレット新潟店営業日

2024年 9月							2024年 10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	6	7	8	9	10	11	12
8	9	10	11	12	13	14	13	14	15	16	17	18	19
15	16	17	18	19	20	21	20	21	22	23	24	25	26
22	23	24	25	26	27	28	27	28	29	30	31		
29	30												

営業時間 11:30~16:30 □…は休業日

福祉の店
パレット情報



編集後記

この夏も週末に福島県の会津地方、裏磐梯へ小さな旅をし、ホテルでバイキング料理と温泉を楽しんだ。日曜日は翌日からの勤めに備え、のんびり過ごした。9時半を過ぎ携帯電話が鳴った。発信先の市外局番は会津。出ると、男性が「〇〇ホテルです、チェックインのお時間です」。えーっ! 晩酌のほろ酔いも吹っ飛んだ。帰宅した土曜夜「来年も行こう」とパソコンで、別のホテルを探し、来夏の宿泊を予約した。つもりだった。「来年の予約のつもりでした」と低姿勢で説明した。予約が前日だったことに不審感を抱いていたのか、そのホテルマン氏「そうでしたか。来年はぜひ!」とあっさり、了解してくれた。予約ミスはこちらの責任。キャンセル料100%を請求されかねないケースだった。相手を責めることをせず、許すことの方がいいかに尊いか、そのホテルマンから学んだ。来年は必ず!。(佐)

この機関誌は、赤い羽根共同募金の助成を受け発行しています。

発行所/社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上所2-2-2ユニゾンプラザ
☎ 025-281-5584
発行人/関原 貢
定 価/5円 (会員の購読料は会費に含む)

福祉にいがた
令和6年9月1日発行 (毎月1日発行)
印刷/島津印刷株式会社